

第2回新産業創出分科会、第3回勉強会のふりかえり

第2回新産業創出分科会(10月19日)

《メガソーラー》

- ☐ はつきり規模が確定していない点があるが、当初予定していた規模よりも小さくなる可能性がある。
- ☐ 分科会として、このぐらいの規模であれば実現の可能性があるという案を事務局側から提示してほしい。
- ☐ 太陽光発電の電力を植物工場に使用する。それに蓄電池を併設して夜間の安定した電力を供給する案があった。
- ☐ 本来は電力事業者として立ち上げないといけないが、両竹地区においては難しい。
- ☐ プロフェッショナルな事業者に参加してほしい。

《農業》

- ☐ オランダ型の大規模な太陽光利用型の植物工場がよい。
- ☐ 規模は小さなものから始めるとよい。
- ☐ トレコギキョウ、バラ、将来的にはトマトなどを栽培する。
- ☐ 復興組合は必要。
- ☐ 実践者は農業生産法人になる。
- ☐ 古代米による田んぼアートができるのではないかと新しい案が出た。
- ☐ 水利に関しては課題もありそうなので、次回分科会で県等に確認した内容をお示ししたい。

《養殖》

- ☐ チャレンジしてもよいのではないかという声もあったので、再度勉強会で検討してみたい。
- ☐ ダチョウなどは全国への発信PRにつながる要素もある。
- ☐ 観光に寄与できる水族館というアイデアもあった。
- ☐ 販路の確保は難しいが、食用の養殖をすることで放射線をモニタリング、実証の場として国に呼びかけてはどうか。

《カフェ・レストラン》

- ☐ 前向きに検討してもよい。

《雇用》

- ☐ 厳しいという声があったが、メガソーラー、バイオマスの熱供給でどれだけ雇用が創出できるかという指摘があった。

《復興産業拠点との関係》

- ☐ 本分科会と復興産業等拠点部会との位置づけについて改めて確認した。

次の分科会では、さらに話を深めていきたい。

第3回再生可能エネルギー活用・推進プロジェクト勉強会(11月2日)

《メガソーラー》

- 大規模太陽光発電については、両竹地区周辺の電気需要を考えると整備費等のコストの面から企業誘致が難しいかもしれない。
- ・一方、両竹地区では現在大手企業と地元で動きがあると聞いている。市民ファンドを活用できればよいと考えている。
- ・内陸のほうであれば大規模太陽光発電の展開も可能性がある。

《飼料用米》

- 小さい規模から始めて、大区画化や機械化を進めて、再生可能エネルギーを活用しながら発展していくとよい。
- ・もみ殻は、バイオマスとして活用ができる。(薪にする手法がある)

《バイオマス・燃料資源作物》

- 稲作(本体の産業)のバックアップとしてバイオマス活用と連携できるとよい。
- 燃料資源作物の採算性を考えると積極的ではないが、再エネのシンボルとして小さなスケールで菜の花やひまわりの栽培や活用を始めるのはよい。
- 施設園芸のコストの1~2割を占める燃料(重油、灯油)の代替として、積極的にバイオマスの地産地消をすることで省エネや低炭素につながる。
- ・稲わら、もみ殻以外の廃棄物が出た場合にも、積極的に活用していくとよい。

《再エネと農業再生の組み合わせ》

- キーワードは3つ。①新しい効率的な農業に向けた「取っ掛かり」、②地域の再エネを活用した「エコ・省エネ」、③小さいことから始めて広げていく「未来志向」。
- ・チャレンジという位置づけはよい。複合化しながらより良い組み合わせを試していくとよい。

《担い手》

- ・復興組合は、話し合いをする場であることをみなさんにご理解いただきたい。
- 地域からの担い手が期待できなければ、他地域から担い手を募ることが必要。(一般的に近隣の集落に頼むことはある)
- ・企業以外でも、大学や研究機関、NPO と連携する例はある。双葉町でも働きかけると協力したいという組織ややりたいという方も出てくるのではないかな。